

私を変えた先生との出会い

私が特別支援教育に関心を持ち始めたのは、私自身が支援学校で生活したことが始まりだ。私は右足に運動機能障がいがあり、中学生の時に足を手術し、約4ヶ月間、支援学校で生活していた。施設に入ったばかりの頃は、障がいのある人たちとどのように接していけばいいのか分からず、不安な気持ちであふれていた。しかし、支援学校で生活している多くの障がい者の人たちは、皆前向きで自分の障がいに落ち込む様子もなく、施設に入ったばかりの私を笑顔で迎えてくれたのを今でも覚えている。それは、支援学校の先生方が子ども一人一人にきめ細かく、温かい指導をしてくださっているからだと思った。

私は施設にいる間、自分で立つことも困難だったので、車いすに乗って生活していた。リハビリは続けていたが、自分の体なのに思い通りに動かないことがとても悲しかった。その事を私は担任の先生に話したことがあった。すると先生は、私の手を握って「見咲さんの足は絶対に良くなるよ。だって、こんなに努力している足なんだから。」と、真剣な表情で言ってくれた。たった一言だったが、私はその言葉で、自分の今までの努力が報われたようでとても嬉しかった。先生はその他にも、毎日の送り迎えや私のリハビリの様子を見たり、お手洗いの手伝いをしてくれたり、どんな些細なことでも笑顔で私を支えてくれた。常に自分のことは後回しで、自分の時間のほとんどを私たち生徒にかけてくれた。

この経験から、私も先生のように他者を思いやることができ、児童・生徒一人一人の特性に寄り添うことのできる特別支援学校の教員になりたいと思うようになった。いろいろと大変なこともあると思うが、自分の理想とする教師像に近づくために努力していこうと思う。そして私が教師になった時に、先生が私にしてくださったような支援を子どもたちにしていきたいと考えている。

奥野 見咲
(高校生)